

《カリキュラムツリー》 保健医療学部柔道整復学科 2018年度以降入学生

必修科目
選択科目

カリキュラム・ポリシー

《共通基礎科目》
教養に富んだ医療人育成のための教養系科目、専門科目を修得するためのステップとして臨床系科目の基礎となる自然科学系科目、将来の柔道整復の発展のために国際貢献のための国際人育成のための外国語科目、統計処理を基礎とした研究の素養を身につけるための情報処理系科目を配置する。

《専門基礎科目》
専門科目である柔道整復学の基礎となる人体の構造や機能を学ぶ科目、その知識の基礎に立ってさらに臨床の場で特に鑑別診断に必要な知識となる科目、さらにそれらの知識を応用して緊急な状態にある者に対して適切な判断・処置ができるようにするための科目を配置するとともに、「礼に始まり礼に終わる柔道」を必修科目とし、柔道を通じて礼儀を重んじる態度を身につけ、医療人としての人格

《専門科目》
基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技(臨床実習を含む)及び卒業研究よりなり、専門分野である骨折、脱臼及び軟部組織損傷についての理論及び治療のための実技を段階的に学修し、さらに臨床実習において実践力を身につけさせる。また、卒業研究として、主体的にテーマを設定し、担当教員の指導の下で、自ら種々の研究技法を用いて論文にまとめる。その過程で、日々進歩する医学の知識を修得することの大切さを感じてもらい、将来の柔道整復の発展のために貢献できる科学的思考を身につけさせる。

科目区分	1年	2年	3年	4年
	前期	後期	前期	後期
自然の科学	生き物の科学(生物学) 物質の科学(物理学)	物質の反応(化学)		
人間と社会	教養特講 法学(日本国憲法)	社会保障の基礎 心理学概論		
健康科学	生化学 健康の創造(体育理論) 健康スポーツ(体育実技)	薬物療法	卒業学(スポーツ実業学を含む)	
コミュニケーション	英語Ⅰ 中国語	英語Ⅱ 英語コミュニケーション		
情報処理	情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ		
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ	解剖学Ⅲ 生理学Ⅲ	解剖学実習 生理学Ⅳ 生理学実習 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習
疾病と傷害		病理学Ⅰ 一般臨床医学Ⅰ 外科学概論Ⅰ 整形外科Ⅰ リハビリテーション医学Ⅰ	病理学Ⅱ 一般臨床医学Ⅱ 外科学概論Ⅱ 整形外科Ⅱ リハビリテーション医学Ⅱ	病理学実習 一般臨床医学Ⅲ 一般臨床医学Ⅳ 外科学概論Ⅲ 整形外科Ⅲ 整形外科Ⅳ リハビリテーション医学実習 救急法
保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅰ	柔道Ⅱ 柔道Ⅲ	柔道Ⅳ 衛生学・公衆衛生学Ⅰ	柔道Ⅴ 衛生学・公衆衛生学Ⅱ 衛生学・公衆衛生学Ⅲ 関係法規
基礎と道整復学	運動器系の解剖Ⅰ 骨の損傷概論Ⅰ 関節の損傷概論 軟部組織損傷概論	運動器系の解剖Ⅱ 骨の損傷概論Ⅱ 関節の損傷概論 軟部組織損傷概論		
臨床柔道整復学	画像診断学	上肢の骨折理論Ⅰ 下肢・体幹の骨折理論Ⅰ 上肢の脱臼理論Ⅰ 軟部組織損傷各論Ⅰ 後療法	上肢の骨折理論Ⅱ 下肢・体幹の骨折理論Ⅱ 上肢の脱臼理論Ⅱ 軟部組織損傷各論Ⅱ	下肢・体幹(頸腕部を含む)の脱臼理論 柔道整復理論総合演習Ⅰ 柔道整復理論総合演習Ⅱ 柔道整復理論総合演習Ⅲ 柔道整復理論総合演習Ⅳ 柔道整復理論総合演習Ⅴ
柔道整復実技	包帯実技Ⅰ	包帯実技Ⅱ	上肢の骨折実技Ⅰ 上肢の骨折実技Ⅲ 下肢・体幹の骨折実技Ⅰ 上肢の脱臼実技Ⅰ	上肢の骨折実技Ⅱ 上肢の骨折実技Ⅳ 下肢・体幹の骨折実技Ⅱ 上肢の脱臼実技Ⅱ 高齢者・競技者の外傷予防 軟部組織損傷の実技Ⅰ 運動器の外傷実技
実習 臨床	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ	臨床実習Ⅲ	臨床実習Ⅳ 臨床実習Ⅴ 臨床実習Ⅵ
卒業研究			卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ

ディプロマポリシー

- ①柔道整復師として必要な知識及び技能、並びに職業倫理を十分に身につけている。
- ②医療人としてのコミュニケーション能力、主体的に判断できる力を有している。
- ③教養および医療人としての誠実さ、優しさ、協調性を身につけている。
- ④人と人とのつながりを大切にする力、物事の多様性を理解し、国際人としての考え方を身につけている。
- ⑤日々進歩する医学知識を修得するための素地、柔道整復の発展のために臨床家あるいは研究者として貢献することができる素養、科学的思考を身につけている。教養および医療人としての倫理観を身につけている。